

らしんばん

議会報告



2018年9月議会号
発行日 / 10月31日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

今宮火まつりで無病息災を祈る



目次

- 1. 県議会9月定例会開催 P1
 - 2. 常任委員会「文化観光委員会」での主な論戦から P2
 - 3. 一般質問の論戦報告 P2
 - 4. 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技 P2・3
 - 5. 地域の課題と進捗状況 P2・3
 - 6. 議会外の視察・研究報告 P4
- 児童虐待の悲劇は後を絶たず P4
- 9月議会で決定した国へ提出される意見書 P4
- ホットなつぶやき P4
- 県政相談窓口 P4

ハイライト



常任委員会 文化観光委員会委員長としての議事進行。



富士市観光団体代表と県東京事務所に協力要請。



JOC副会長橋本聖子氏に県内五輪開催協力要請。



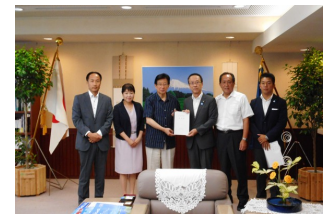
田子の浦港防災対策視察 牧野国交副大臣に同行。



現場の声を聞くため、福祉事業所説明会を視察。



富士山保全協力金徴収状況を水ヶ塚公園で調査。



富士市の次年度要望を市長に同行、知事に説明。

1. 県議会9月定例会開催(9月19日～10月11日まで開催)

県政の当面する課題と報告では、台風21号や北海道胆振東部地震など被災地への教訓を本県の防災対策への備えとする。障害者雇用率算定に関する不適切処理については、「障害者就労促進の立場」にありながら不適切であったことを大変深刻に受け止め、今後の取り組みを万全とする。

防災関連では、ブロック塀の安全対策について、県有施設と県立学校を対象とし、目視による安全点検を行い、法不適合や不具合が発生した箇所について、道路などに面しているブロック塀は直ちに撤去した。住宅等のブロック塀については、撤去・改善に対する助成制度の申請件数が前年度比較約4.5倍となり、助成経費の増額を9月補正に盛り込んだ。豪雨災害では、避難指示に課題があったことから、河床の浚渫などのハード整備のほか、ハザードマップ作成や避難行動を促す防災アプリ開発などのソフト対策を補正予算に盛り込んだ。また、今後は住民が情報を正しく理解し、避難行動に確実につながるための組織を立ち上げ、関係方面と連携して対策を講じていく。

受動喫煙防止対策について、健康寿命の更なる延伸のために、「望まない受動喫煙対策」として条例を制定する。学校などの敷地内の禁煙や、全ての飲食店において「禁煙」「分煙」「喫煙可」の標識設置を義務化する。

障害者のある方の文化芸術活動振興では、静岡市内に支援センターを設置し、障害のある方のアーティストの発掘・育成、創作活動の人材育成などを支援していく。

ICT利活用の促進と人材育成では、中小企業に関して県工業技術研究所を支援拠点とし、IoT技術を体験できる機器を活用したセミナーや相談会を開催する。人材育成では、ICTに秀で

た子どもの育成、AIを活用した学習支援システムを農業高校に導入する。

農業関係では、AOI-PARKはニーズに応える最先端農業の高度な取り組みが期待されており、各方面を支援していく。茶振興は需要が拡大しているドリンク茶や輸出が伸びている抹茶などに対応するため、高品質で低コスト生産を可能とする製造機械導入や茶園の基盤整備を前倒しで推進する。

太陽光発電施設は、森林伐採による自然環境保全、災害対策の懸念から、環境アセスメントの適用範囲拡大や、ガイドライン作成などを進める。

東京2020オリンピック・パラリンピック後のレガシーの創出では、日本サイクルスポーツセンターを中核施設とし、県民が自転車競技に親しみ、学び、体験する場を提供していく。

ラグビーワールドカップ2019では、一般チケット販売を開始、大会公式ボランティアの応募も大会史上最高、県内のファンゾーンも静岡市、浜松市内に設置が決まった。

「文化の拠点づくり」としての東静岡駅南口県有地は、県立図書館の全館移転のほか、民間事業者の積極的参画を促進するとしているが、音楽活動を行う環境が十分に整っていないなど、新たな課題に対応する必要性が明らかとなった。

世界遺産富士山の今季登山者からの保全協力金は、5,600万円余で過去最高を記録。富士山の環境保全や登山者の安全対策に活用される。富士山世界遺産センターは、開館以来8ヶ月で年間目標の30万人に対し、39万人近くに上った。今後は、富士山絵画を集めた本格的な美術展覧会を開催する予定。

今年度は、県議会文化観光委員会委員長

ほか県国土利用計画審議会委員等5役に就任中

最新の活動情報をブログで配信中。



2. 常任委員会「文化観光委員会」での主な論戦から

ラグビーワールドカップ2019開催推進事業費における 小中学生向けの教本の作成に関し、ラグビーの歴史や精神、エコパで開催予定の4試合の見所等を盛り込んだ静岡県オリジナルの教本とする。本議案成立後に制作委員会を設置し、学校現場の声を反映させた内容として今年度中に作成し、来年度当初に県内全小中学校に配付する。また、配付に当たっては、教本とともに教員が授業を行いやすくなる指導マニュアルなどをあわせて作成し、ワールドカップが開催される9月までの授業等で活用していただくことを想定している。

駿河湾フェリーの事業継続に向けた取り組みでは、4月以降も継続的に運行を行う当面の措置として県と環駿河湾3市3町の枠組みでスタートする。しかし、フェリー事業の効果は3市3町にとどまるものではなく、伊豆半島全体、県全体にも広がるものであると考えるので、今後は他の自治体、団体に対してもさまざまな協力をお願いをしたいと考えている。また、国内誘客推進事業費により、環駿河湾地域の魅力を発信する観光プロモーションやジオサイト観覧ツアー、富士山静岡空港からレンタカーを往復利用した者がフェリーに乗船した場合のキャッシュバックなどを予定しており、本事業を通して駿河湾フェリーのさらなる利用の促進を図りたい。

静岡県立大学大学院の定員未充足の状況及び対策では、平成30年度の充足率は修士課程において87.8%、博士課程で90.1%であり、ここ数年定員割れしている。その要因として、近年の景気回復もあり、学部生が大学院進学よりも就職に対

する意向が強くなっていることや博士課程修了後のポスト不足など大学院を出た後の就職が難しいことなども考えられる。対策として、学部生に対する交流会やセミナーの実施、交流のある海外の大学に対するPRなどに加え、看護学研究科では、看護師として既に働く方々に対し、大学院での学び直しを進めている。

静岡デスティネーションキャンペーンについて、ブレDCの評価を踏まえた来年度の企画方針は、本県を訪れる観光客に対しては、地域の商品造成の仕組みづくりと併せて魅力ある観光コンテンツを提供することが重要と考えている。ブレDCにおいて評価が高かった久能山東照宮の竹あかり展や韮山反射炉における人間国宝の狂言舞台などについては、来年度の本番においても大いに期待できるものなのでさらなる充実を図りたい。また、浜名湖花博15周年に当たり、経済産業部がガーデンパークの植栽や特別展示などを予定しており、記念イベントを計画している。このほかにもブレDCの評価を踏まえて内容を改善しているところであり、これらの企画については11月頃を目途に集約して本番に向けて旅行会社に提案していく。

そのほか、●東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技会場整備に係る費用負担●私立幼稚園教員人材確保支援事業による効果●スポーツの聖地づくりに向けた今後の方向性●富士山保全協力金の協力状況●文化力の拠点の形成に向けた全体のスケジュールなどについても質疑等がありました。

3. 一般質問の論戦報告

CNFに関し静岡大学寄附講座の成果と今後の取り組みでは、研究開発面で本県独自の複合材料開発に向け動き出した。寄附講座をきっかけに静岡大学内に研究開発・人材育成の拠点が形成されたことで、成果を県内企業に普及させCNF関連産業の創出と集積につなげていく。**CNFの人材育成**では、高度な研究領域として静岡大学の寄附講座が果たし、そのほか、東京大学や京都大学、国の研究機関等と連携強化を図る。製造等に関わる人材育成は、県富士工業技術支援センターを中核機関として取り組んでいる。私が提案する県富士工業技術支援センター内へのサテライトキャンパス設置であるが、本県をCNFの世界的な拠点形成を目指すために、知の拠点形成、人材育成拠点は非常に重要であり、関係する大学等と協議の場を設け、真剣に研究していきたい。

人口減少社会に対する取り組みのうち、県内に移住しやすい環境づくりでは、来年1月の全県規模の住宅フェアにおいて、市町が子育てや教育環境の相談に、国の労働局が仕事相談など、くらし全般に関わる様々な疑問や要望に丁寧に対応することとした。**県内企業の人材確保**では、子どもから成人ま

で、本県で生涯をかけるにふさわしい職業を見つけ、自らの夢を実現し、大いに活躍できるよう、県内の様々な仕事の魅力に触れる機会を創出していく。国内でのUターンのほか、世界の若者が静岡を目指す取り組みも考えている。

農業の安全性については、国が平成26年に新たな安全性評価を導入し、健康に配慮して農薬の残留基準値がより厳しく見直された。家庭菜園でよく使われている農薬についても、使用回数が制限されていたり、作物によって使用できなくなることもあり、一般の県民への周知については、県の重要な役割である。このため県では、HPなどで農薬の使用に関する情報を掲載するなどしているが、今後は、広く農薬を販売する量販店等に対し、農薬の使用に関する情報を分かりやすく伝えるよう、研修会や立ち入り検査を通じて指導を強化する。

今後の県立スポーツ施設のあり方については、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催などを契機に、その後の県立スポーツ施設の活用を促進するため、施設整備などのほか、国際大会や全国大会などの誘致に関し、県の取り組みを質したもので、国際大会の誘致や、交流拡大等の効果を見定め、

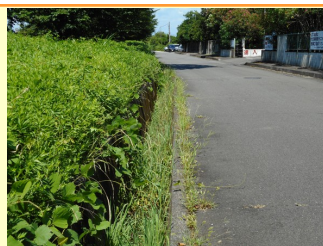
地域の課題と進捗状況 (各地の要望から)



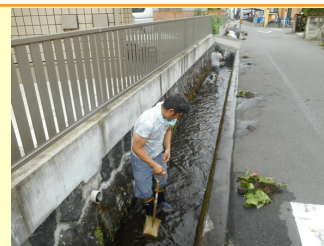
豪雨による南松野地区、血流量の河床流出の補修のため、県土木と協議。市の協力もあり応急処置で対応。



南松野地区、県道沿いの側溝不備により、県道内の水たまりによる交通事故発生防止対策として、恒久対策を検討。



浮島工業団地南側の沼川土手は、地域による河川愛護活動に取り組んでいるが、様々な要望が寄せられる。



台風シーズンを迎え、地域内の河川清掃に参加。重要な作業であるが、高齢化とともに参加者が減少している。

今後の機能整備を検討する必要がある。副知事二人をリーダーとして、スポーツ施策を総合的に推進する部局横断的なプロジェクトを新たに立ち上げ、スポーツ環境基盤の充実などの課題について、競技者や利用者、現場の皆様の意見を十分踏まえながら、関係部局が連携して計画に取り組むこととした。私が指摘した県富士水泳場についても、県水泳連盟や地元富士市などの意見も聞くとともに、国際大会誘致の計画や利用者ニーズも勘案し、施設の効果的な活用に必要な機能を検討していく。

防災の取り組みのうち、災害時の情報伝達では、県が防災総合アプリ「静岡県防災」を構築し、緊急時には避難指示等の緊急情報がプッシュ型通知として伝達され、利用者の現在地周辺のハザードマップや避難先を表示するなど適切な避難行動を促す。また平時にはAR技術を活用して津波や洪水による浸水高を表示し、地域の危険度を理解しやすくするほか、防災訓練時には避難に要した時間や経路の記録などで、避難行動の妥当性が確認できる。利用促進についての広報や誰もが使えるための体験なども工夫していく。

福祉避難所の受け入れ体制については、現在、県内には758カ所の福祉避難所があるものの、第4次被害想定で推計される要配慮者数を受け入れるためには不足しており、一般の避難所に要配慮者を受け入れるための場所の確保が急務となっている。県内では、35市町のうち11市町が取り組んでおり、全市町での受け入れ体制を整えらるとともに、最寄りの福祉避難所に避難できるよう、訓練を進めていく。福祉避難所の運営体制では、社会福祉施設等の運営に支障がないよう、市町

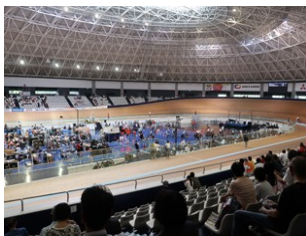
や自主防災組織等が中心となって担うこととなっているが、人材の確保が困難となることが予想される。そこで、福祉避難所運営支援のための「災害派遣福祉チーム」(DCAT)や、「災害支援ナース」を派遣する体制をとっている。「介護ボランティア」の受け入れ状況では、ボランティアを受け付ける際、申込書に資格等を記入していただくことになっており、必要に応じてその資格での活動を依頼することになる。さらに、福祉避難所の公表については、市町が福祉避難所を開設したときは、災害対策基本法により公示することになっており、県は市町を指導しているため問題はない。



発達障害児者支援では、静岡県発達障害者支援地域協議会の意見を踏まえて具体的な取り組みを行っている。地域の支援体制を強化するためには、療育拠点となる市町の児童発達障害支援センターの設置が必要であり、県内35市町のうち未だ設置していない22市町に対し、設置を促すとともに、「自閉症支援講座」や「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」などによる専門人材を養成している。東部地区発達障害支援センターは、4月から職員の常駐をやめ、窓口での相談業務が行われていないが、10月から遠隔地を結ぶ双方向通信による面談を可能とすることで、相談業務等を補完することとなった。東部地区の親の会からは、「静岡まで子どもを連れて相談に行くのは負担がかかっている」という意見にも、応えていけると考えている。しかし、「サービスの低下」という思いはぬぐえず、より、具体的に取り組むことを要望しました。

4. 東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技会場が静岡県内に決定

自転車競技オリンピックのトラックレースは7月30日から8月4日まで、パラリンピック・トラックレースが8月27日から30日まで。オリンピック・マウンテンバイクは8月8日・9日が、ロードレースは7月25日(男子)、26日(女子)が決定しています。



トラックレースの会場となる伊豆市にあるベロドローム。

トラックレースでは、開催に向けての準備が進む中で、プレイベントとなる国際大会なども計画され、徐々に機運が高まっています。その一つが、7月6日から3日間、伊豆ベロドロームにて開催された「第5回寛仁親王記念ワールドグランプリ国際自転車競技大会『2018ジャパン・トラック・カップ』」です。主催は公益財団法人日本自転車競技連盟で、競技種目はスプリント、ケイリン、スクラッチ、ポイント・レース、オムニアム、マディソンなど多くの種類があると驚きました。主催者の会長は参議院議員で日本オリンピック委員会(JOC)副会長の橋本聖子氏で、自らも自転車競技やスケート選手としてオリンピックに出場し、日本選手団長と

しても長くオリンピックに関わってこられました。

ロードレースは東京都の「武蔵野の森公園」をスタート地点とし、神奈川県境から小山町を通り、御殿場市玉穂地先から国道469号を裾野市方面に南下し、須走を通過して富士サファリパーク地先から十里木別荘地の北側を通り、イエティを通過、富士山スカイラインに出た後、御殿場富士公園線のキャンプ富士を通過し、玉穂地先に戻る東富士演習場を一周する様なコースとなっています。その後、御殿場市内から小山町に入り、明神峠を通過して山中湖に到り、そこから箆坂峠を通過して富士スピードウェイでゴールとなります。ゴールまでは4~5



ロードレースのゴールとなる小山町富士スピードウェイ。

時間、男子は総距離が244キロメートルで、女子は147キロメートルとなっており、何回もアップ・ダウンを繰り返す過酷なレースです。最大の見所は雄大な富士山で、コース上の景観に配慮した整備は県が行います。今後は、道路の整備計画や安全対策、支援ボランティア募集などの準備に入ります。



天間地域内、新東名高速道路と交差する潤井川における、河床の浚渫ならびに、除草対策要望を受け現地視察。



富士岡地先の根方街道交差点事故多発防止について、県、県警、地元代表による現場視察と今後の対策を協議。



地域の自主防災訓練では、初のDIG(図上訓練)が行われ、危険箇所や避難ルートの確認を行った。マンネリ化防止へ。



浮島ヶ原自然公園にも特定外来種が出現する。自然保護と在来種保護のため、子どもたちとワークショップを実施。

5. 議会外の視察・研究報告

文化観光委員会県内視察、ベトナム、インドネシアとの交流



県内で唯一、民間が運営する特別支援学校「ねむの木学園」を視察。施設内にある美術館に展示された生徒たちの素晴らしい作品に感動。



ラグビーワールドカップ2019の会場となる、県立小笠山総合運動公園のエコスタジアム。来年の開催に向けて準備が進む施設を、担当として視察。



富士山静岡空港は、民営化とともに国際線機能向上と、空港内施設の拡充を図っている。売店や待合室など整備が大詰め状況を確認。



ベトナムホーチミン市にある、日系合板工場を視察。ベトナム戦争による壊滅的な森林破壊から立ち上がり、保全と活用の実態調査のため視察。



静岡県はインドネシア西ジャワ州と交流の覚書を締結。教育分野では、国立パジャジャラン大学と県立大学が、現地教員や学生と意見交換。



インドネシア西ジャワ州議会を表敬訪問。本県との交流に議会同士の取り組みも重要であり、議長や議会要職、州政府関係者と意見交換。

児童虐待の悲劇は後を絶たず

大阪で両親による息子への児童虐待により、小学3年生の長男が亡くなりました。親が自分の子どもの命を奪うという悲惨な事件は後を絶ちません。

本県の「第3期静岡県子ども・若者計画」では、具体的な施策展開の中に、「子ども・若者の被害防止・保護」という取り組みがあり、子どもの心身の成長や人格形成に多大な影響を及ぼす虐待の相談件数が増加しているという現状に歯止めをかけることが記されています。特に、複雑・困難なケースが増加し、専門的知識に基づく、的確・迅速な対応が必要とされています。

しかし、専門的という表現がある一方で、迅速な対応を実現するためには、児童虐待の兆候や疑いに対して、周囲の一般の人が躊躇なく然るべき関係機関等に通知することが重要であり、取り返しの付かない状況に発展する前の、情報提供は欠かせません。

小さな命を守るために、私達一人ひとりの果たす役割は小さくありません。

県政相談窓口

地域の課題、道路・河川等の整備などについてのご相談窓口です。市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで判断致しますので、区別なくお気軽にお問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

◆9月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 外国人技能実習対象に水産生食用食品製造作業等の追加を求める意見
- ② 水道施設の戦略的な基盤強化の推進に関する意見
- ③ 国立高等専門学校の安定的・継続的な学習環境の確保を求める意見
- ④ 自動車関係諸税の見直しに関する意見
- ⑤ 幼児教育無償化の確実かつ安定した運用を求める意見

♥ホットなつぶやき

議会報告などの情報発信手段は、この「らしんばん」のほか、ほぼ毎日の出来事をブログで発信しています。お盆に全国に向け生放送されたある番組は、私のブログが取材のきっかけだったとお聞きました。日常を書いたつもりが、私には非日常の出来事でした。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2F 417-0847

☎0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/>

